

第1部 提言：

21世紀におけるボールルームダンスの振興課題と方策 ～「健やかな生、豊かな交流、伸びやかな自己開発」を求める ボールルームダンスの新しい世紀のために～

第1章 21世紀におけるボールルームダンス文化の構築

1. これからの市民生活におけるボールルームダンスの意義と可能性

(1) ハイテク文明の進展とボールルームダンス

ハイテク文明の進展がもたらす弊害に対し、ボールルームダンスは、リズムカルな動きの楽しみの享受によって生命活動を活性化するとともに、コミュニケーションと表現のメディアという文化的特性によって、豊かな人間的交流を培う大きな可能性を有している。

21世紀における科学技術の進歩は、インダストリアルテクノロジー（産業技術）からバイオテクノロジー（生命工学）への変容、IT（情報技術）革命によるメディアコミュニケーションの著しい進展、人型ロボットの生産等を予測させる。こうしたハイテク文明は、市民生活をより合理的でグローバルなものとし、便利で快適にするとともに、人間のもつ大きな可能性の深化と拡大を期待させる。しかし、その反面、生活の人工化・機械化や、虚構的で非現実的な情報の流通を増大させ、文明と人間的自然の乖離を広げる側面をもっている。その結果、人間らしい生命活動の衰弱や、具体的で豊かな人間的交流を阻害し、存在の不安や慢性的な喪失感を生み出すことも危惧されている。

ボールルームダンスは、リズムカルな動きの楽しみの共有というダンスの本質によって生命活動を活性化し、より生き生きとした人間的生の創造に大きな意味を持つ。また、身体的コミュニケーションと表現のメディアとしての文化的特性によって、人々の相互理解、相互尊敬を育み、全人格的で豊かな人間的交流の創造にも資することができる。従って、ボールルームダンスは、これからの市民生活において、より豊かな人間的生の活性化と交流に大きな貢献をなしうる可能性を有しているのである。

(2) 新しいライフスタイルの創造とボールルームダンス

ボールルームダンスは、人間的成熟をめざす21世紀のライフスタイルの創造において、人々の知性、感性、身体的可能性を育む重要な文化享受の内容である。

エコロジー、環境、そして共生が重要なテーマとなる21世紀の社会では、際限のない物的資源の生産と消費は否定され、所得と消費のための仕事を中心とする産業社会型生き

方・暮らし方は望ましくないものとなる。また、到来している少子高齢化社会においては、満ち潮に視点を置く成長志向の人生デザインではなく、引き潮にも配慮した成熟志向の生涯設計が重要となる。したがって、これからの市民生活においては、それぞれが自分らしさを求めて自己の可能性を探求する成熟型ライフスタイルの確立が望まれる。この人間的成熟を求めるライフスタイルの創造においては、それぞれが生活のなかで自己の知性・感性・身体的可能性を磨き、それを楽しみ、健やかな生、豊かな交流、伸びやかな自己開発につながる文化享受が重要となる。

リズムカルな動きの連続を共有する楽しみを基調にして、パートナーとの豊かな人間的交流をもたらすボールルームダンスは、ダイナミックな動きによる身体的可能性を開発するだけでなく、コミュニケーションと表現のメディアとして豊かな感性を育み、男女の相互理解、相互尊重の促進において知性をも高める大きな可能性を有している。したがって、ボールルームダンスは、21世紀に求められる新しいライフスタイルの創造において、きわめて重要な文化享受の内容となるのである。

2. 21世紀におけるボールルームダンス文化の構築

(1) 身体的コミュニケーションと表現のメディアとしての文化的確立

ボールルームダンスの世界には過剰な技術志向と文化的未熟さが存在している。この現状を脱却するために、21世紀のボールルームダンスには、身体的コミュニケーションと表現のメディアとしての文化的特性を確立することが望まれる。

我が国のボールルームダンスは、欧米列強国に対する外交的懐柔策の手段として移入された。そして、男尊女卑の考え方の中で、男性がダンスホールで職業女性ダンサーを相手にするという一時的ななぐさみとして広がった。こうした歴史を背景に、ボールルームダンスは不健康な営みとみなされるようになり、長い間、文化的な偏見と蔑視を受けてきたのである。

そのため、我が国のボールルームダンスは、芸術・競技に志向する専門的世界と、気晴らし・なぐさみに志向する風俗的世界との二重構造をもつにいたっている。その結果、前者においては過剰な技術志向が生じ、後者においては無節操と未熟さの支配が続いている。

このような現状を脱却し、21世紀におけるボールルームダンス文化を構築するためには、「パートナー間の相互理解と相互信頼を基盤とし、定められたフレームに沿ったリズムカルな動きの共有によるコミュニケーションと表現の楽しみ」という、ボールルームダンスの文化的な特性に立ち返ることが求められる。このことによって、ボールルームダンスの技術は豊かなコミュニケーションの享受のためのものであることへの理解と、ボールルームダンスの文化的享受には規範にそった節操と成熟が求められることへの理解とが生まれるからである。つまり、21世紀のボールルームダンスには、改めてその原点に立ち返り、身体的コミュニケーションと表現のメディアとしての文化的確立が求められるのである。

(2) 市民社会における生活文化としての確立

これからの市民生活において、その文化的意義を万人に向けて開かれたものとするために、ボールルームダンスは、閉鎖的な世界における特殊な文化から、誰もが気軽に暮らしの中で享受しうる生活文化となることが求められる。

我が国のボールルームダンス愛好者間には、顕著な性差、世代差、地域差が存在する。加えて、専門家と大衆の間には大きなギャップもある。こうした状況は、明らかに、ボールルームダンスが、いまだに人々の暮らしに根づいた生活文化として確立していないことを物語っている。ヨーロッパのボールルームダンスは、当初、階級文化として形成されたが、民族の多様な音楽と踊りを取り入れ、洗練することによって生活文化に発展するにいたった。我が国のボールルームダンスが移入文化であることを考えれば、これと同じ過程をたどることは困難であるにしても、生涯スポーツが著しく台頭しつつある今日、ボールルームダンスの生活文化としての自立化の可能性と必要性は大きく広がっているといえよう。

21世紀の市民生活においては、「健やかな生、豊かな交流、伸びやかな自己開発」は万人に共通する願いである。そして、「自己の知性、感性、身体性の人間的成熟を求めるライフスタイルの創造」は、21世紀市民生活の共通課題である。リズムカルな動きを共有する楽しみを基調とした身体的コミュニケーションと表現のメディアとしてのボールルームダンスは、まさしくこの願いに応え、課題解決に貢献することができる。

したがって、ボールルームダンスには、その特殊な文化という閉鎖性を脱皮し、生涯スポーツの新たな旗手として、万人に開かれ、誰もが享受しうる生活文化として確立することが望まれるのである。